

島田市震災廃棄物焼却処理の試験焼却についての質問書

2012年1月31日

静岡放射能汚染測定室

私たちは、1988年以來、市民放射能測定室を開設、運営して、食べ物や環境の放射能汚染を測定する活動を行っています。また、放射能に限らず、化学物質と子どもの健康について関心を持ち、それぞれが暮らしの中の化学物質の使用を見直し、CO₂削減、エネルギーダイエットなど、環境と暮らしに関する活動も1990年以來、続けています。この様な活動により、私たちは生活廃棄物（ゴミ）の焼却処理は極力減らし、有機物は自然循環の中で処理するのが好ましいと考えています。

焼却処理をすれば、有害化学物質の生成、濃縮、焼却エアによる環境中への排出などが多く出てしまうためです。

今回、島田市が他県の災害廃棄物焼却処理を引き受けるにあたって、試験焼却を行う旨、報道されましたので、試験焼却の安全を判定するための測定項目や、焼却に当たっての焼却炉の性能について、以下の点をお伺いいたします。

①試験焼却を実施される日時を教えてください。

②搬入される廃棄物そのものの放射能濃度の測定方法を質問します。

*おそらく、サーベーターで線量率を測っているだけだと思いますが、線量率から放射性セシウムの濃度を推定しているとすれば、何十、何百トンもある瓦礫の放射能濃度が正しく測れているとは思われません。

測定している廃棄物の遠いところに強い汚染があっても線量率は測れませんので、その様に測定する計画か、教えてください。

③焼却炉からフィルターまでの間に、この灰と水分にどの程度セシウムが分配されるかを質問します。

*焼却はダイオキシンが発生しにくい温度（高い温度）で焼却されるはずなので、セシウムに関しては、安定な化合物の状態からガス状に変わると思います。ガス状になった単体セシウムは変化しやすいので、セシウムの気化温度以下になると周辺にある灰や水分（蒸気）と反応します。焼却炉の中での変化について教えてください。

④バグフィルター（また、電気集塵機であればそのフィルター）の灰と水分の除去率をそれぞれ、個別に教えてください。

⑤煙突から出てくる灰と水分（蒸気）の量（燃やした瓦礫の総量に対する）について、教えてください。

⑥試験焼却では、煙突から出てくる灰と水分に含まれる放射能を直接試料（灰と水分を個別に）を採取して測定していただけるのでしょうか？

⑦原子力安全保安院が想定している放出放射能は、セシウムだけではありません。放射性セシウム以外の放射能についてはどのように測定・評価するのか、教えてください。

⑧焼却灰が 10000 Bq/kg を超えた場合、放射線障害防止法では放射性同位元素となしますが、この場合、焼却場が法的にはRI 取り扱い施設になることも考えられるので、その際の対策はどのように考えていらっしゃいますか？

以上、試験焼却に当たり、島田市が予定されている安全性の評価方法について、2月6日までに、お答を頂けますよう、お願いします。

静岡市葵区安東 1-2-3

プラムフィールド内

『静岡放射能汚染測定室』

代表 馬場利子

T/F 054-209-2021

Mail: ssokuteisitu@yahoo.co.jp

HP: <http://sokuteisitu.plumfield9905.jp/>

<追って>

私たちは、島田市が試験焼却を行われるのであれば、測定室アドバイザー（K 大学原子核工学の専門家）と共同調査（松葉による放射能汚染調査及び、土壌の測定）を継続的に行い、島田市の汚染状況を公開していく計画です。

この飛散調査（放射能、ダイオキシン汚染拡散調査）は、災害瓦礫の焼却が終わるまで、経年変化を定期的に行い、研究調査の報告を各方面で行っていく予定です。

松葉の選定、土壌の採取に当たりましては、島田市職員の方と一緒に行いたいと思いますので、ご検討をよろしくお願いします。